

日本大学経済学部労働者代表への選出にあたって  
～日大本部に非常勤講師5年雇止めの撤回を求める～

日本大学経済学部労働者代表選挙は、立候補者の互選会議で選任された私への信任投票として行われました。そして、昨日、開票作業が行われ、有権者507名から338票の投票があり、信任186票、不信任142票、無効10票、という結果となり、私は信任されました。

今回の選挙の最大の意義は、非常勤講師の5年雇止めや更新年齢上限の70歳への切り下げを規定した非常勤講師規程の制定・改定・施行に反対する私が信任されることで、非常勤講師就業規則と非常勤講師規程の施行を阻止する立場に立つ労働者代表を選出し、非常勤講師ゼロ化計画と専任教員への教育負担増をめざす日大本部の教学方針の強行、具体化を許さないという経済学部の労働者の意思を示すことにありました。

投票の結果が示していることは、明らかです。日本大学本部の教学方針に真っ向から反対する私の意見表明は、不信任票に示されるような少なくない反発を呼び起こしながらも、とりわけ多くの非常勤講師の皆さんの共感を得ることになり、有権者の7割近くが投票し、投票者の過半数が私を信任するに至ったということです。

私が信任されることにより、非常勤講師ゼロ化計画と呼ぶべき日大本部の教学方針に明確に反対する経済学部の労働者多数の意思が示されたと言うことができるのです。日本大学本部は、この経済学部の労働者多数の意思を踏まえ、真摯に対応するべきです。

私は、日本大学経済学部労働者代表への選出にあたり、まず最初に、日大本部に対して、非常勤講師規程の制定・施行を中止し、5年雇止め規定の撤廃、及び更新年齢上限の70歳への切り下げの不利益変更を撤回することを求めるものです。

また、今後、私は、日本大学経済学部の労働者代表として、非常勤講師規程の施行の阻止と5年雇止めの撤回を実現するために様々な行動を行っていくことになります。この活動は、労働者代表ひとりの行動として行うものではありません。日本大学経済学部働く皆様のご理解とご協力を得て実施していきたいと思えます。また、他学部の労働者代表の方々とも、しっかり連携をはかっていきたいと考えています。日本大学をすべての教職員が安心して働くことができ、誇るに足る職場としていく、そのための大きな変化をここから作りだしていきたいと思えます。

よろしくお願い致します。

2018年3月28日

首都圏大学非常勤講師組合・日大ユニオン準備会事務局次長  
日本大学経済学部平成30年度労働者代表 今井 拓